

# 翠檜

第八号

## 横浜商科大学留学生報

発行所：横浜商科大学留学生会

発行日：2007年2月7日

所在地：横浜市鶴見区東寺尾4-11-1

編集者：留学生会 会長 趙 華春

### 主な内容

- 写真から見た平成18年度留学生会の歩み P. 1~3
- 「グローバル化社会に生きる私たち」  
—留学生フォーラム写実 P. 4~9
- 留学生就職活動サポート特集 P. 10~12



#### 新入（編入）生歓迎ハイキング

平成18年度の新入（編入）生は5人しかいないのに、「大家族」に入るとゼンゼン寂しくない



#### 課外活動—日光見学旅行

美味しいバーベキューを皆で一緒にやろう！  
「見学」「旅行」今年が一番いい思い出！



#### 学園祭留学生模擬店

店員さんが少ないので寂しいよね！来年はもっと応援してくださいね！



#### 留学生フォーラム

グローバル化時代を迎え、皆さんは真剣に自分の将来を考えていますか？

## 新入生歓迎ハイキング

例年のとおり、平成18年度も新入生歓迎ハイキングが2006年4月18日(火)に行われた。

おとしはキリンビール工場の見学で、去年は八景島を拝見した。今年のはハイキングは江ノ島を散策することが決定した。参加者は新入生の3人と先輩留学生や日本人学生や先生たちを含め28人と大行列のグループになった。集合場所は目的地とした江ノ島駅ではなく大船駅を選んだ。その理由は、大船駅から出発し江ノ島に向かう場合、普段乗っている電車と違った形の電車、いわゆる**空中電車**とも言われている湘南モノレールが体験できるからだ。駅を出て最初に向かったのは江ノ島海岸に位置する**新江ノ島水族館**だった。それから皆



が足を運んで江ノ島

### 歴史や島の生活を

触れ合いながら2時間ほどのハイキングを楽しんだ。最後の帰りに

船にも乗る予定があったが、天候によってキャンセルになり、ちょっと残念だった。

## 留学生課外活動―日光見学旅行記



を6月24日(土)25日(日)に実施することとなった。

課外活動を通じて、留学生が校内での講義(日本事情及び日本語)で学んできたことを自身自身がその場に臨み、校内で身につけた知恵を働かせ、より幅広い見聞を深めさせる機会を提供する目的とし、さらに、新入留学生と先輩の留学生および日本人学生と、異文化交流を楽しんでもらい、充実した留学生生活を過ごしてもらうことを狙う。そのため、留学生会の幹部たちは、ほぼ一ヶ月に渡って、皆さんの

実施日… 平成18年6月24日(土)～25日(日)

1泊2日

宿泊地… 那須ビレッジ

見学地… 栃木県日光周辺(日光東照宮、日光江戸村、猿劇場)

参加者… 教職員7名 留学生…29名 学生家族…

1名

初夏を迎え、新入留学生、在学留学生および日本人学生との交流を主眼に置きながら、日本について理解を深めてもらおうと毎年実施してきた留学生課外活動

要望を聞いたり、留学生委員会と留学生担当の先生の助言・指導を受けたりしながら、山ほどの宿泊地や行程情報を集めてきて、よく検討した上で「日光見学」課外活動プランを作成した。

さらに、今回も課外活動は大学の育友会及び同窓会から多額の援助金を頂き、そして、沢山の先生方々にも随行し見守って頂いたため、素敵な旅になった。

### 1、那須高原散策

高原の爽やかな風と、陽光の優しさ、素朴で懐かしい空気に包み込まれながら、ゆったりと過ごすととき。都会にはない、ありのままの自然の姿で、森に足を踏み入れるような感覚で遊んできた。

### 2、初日の懇親会



## 学園祭に出店

11月4日(土)・(土)の2日間にわたって恒例の第39回大学祭が開かれ、留学生会も参加した。毎年出店している留学生会模擬店は今年も相変わらず美味しい料理を出すよう意欲を見せていた。模擬店の飾り付けや、材料の仕入など、準備がいっぱいだったが、実行委員をはじめ全校生徒の皆さんの協力により無事に終えることができた。二日間天気にも恵まれ、中庭での模擬店も人が集まった。留学生会模擬店の品目は中国の水餃子と韓国のチヂミで、味が自慢で、大変好評であった。2日間の出店は想像以上に大変なものだったが、協力し合える仲間が、家族のようにやっていて、全校の最終審査で三位の好成績をもらったことが誇りだ。



## 「グローバル化時代に生きる私たち」

今世界は、「グローバル化社会」といわれ、人・物・金・情報が国を超えて行き交い、国と国の密接な関係をなくして私たちの生活は成り立たないものになっている。そのため、国際協力や国際理解に向けたグローバル化時代への対応とその視点が必要となってくる。大学ではグローバル化時代を担う人材の質の向上に向けた教育の充実や日本人学生、留学生等の国際的な交流の向上などもあげられている。

このようなグローバル化が進んだ中、学内にある多様な文化・国際性に注目し、国際的な視点を養える大学生活の充実をさせ、魅力的なキャンパスを創るよう、大学を切り口に、日本人学生も留学生も互いの国を越えて日本社会・国際社会の一構成員として相互にできることを考えなければならぬことになってくる。

だからこそ、今年の学園祭において、「グローバル化時代に生きる私たち」というテーマとして、グローバル化時代を迎え、私たちは何を考えなければならぬか、今のうちに何の準備をしておいたらいいかを中心に議論する留学生フォーラムが企画された。

そして、本番のフォーラムにおいて各年次の代表者が自分たちの生活を取り巻いている国際的な出来事や、関心を持ったことのプレゼンテーションをし、その内容について参加者たちは興味のあるテーマについて質問をしたり、ディスカッションをしたりした。

せっかくの別荘ライフ、材料を持ち込んでみんなでワイワイ楽しく作った。バーベキューをしながら、留学生生活の苦労話や失敗談、国際理解に対する意見などを通じて、学生間、先生と学生間の交流並びに親睦を深めた。そして、夜になると花火でも楽しんでいた。

### 3. 二日目の課外活動

貸切バスにて、全員一斉に日光へ移動し、主たる当地の江戸文化を代表する日光東照宮、日光江戸村などの史跡見学地を拝見し、日本語あるいは日本事情などの授業中によく出てきた「東照宮」、「徳川家康」、「見ざる、言わざる、聞かざる」などの文化財や歴史人物を現場に望み、見たり、聞いたり、感じたりすることができた。

## グローバル世界における新しい価値観

四年 呉大畏

今回のフォーラムはグローバルというテーマなので私はグローバルにおいて新しい価値観について語りたいと思っています。

価値観という言葉によく使われていますが価値観というのは何ですか。価値観とは物事を評価する際に基準とする、何にどういう価値を認めるかという判断。簡単に言うとあれがよい、これはだめ、これはあなたの価値観です。勉強と経験を通じて新しい価値観が生じることが出来ます。価値観が人間を左右するもので人の人生に大きな影響を与えます。

今日の世界においては、社会、経済、文化のグローバル化が急速に進展し、明らかに「都市の時代」になっています。人・物・金・企業・情報が国境を越えて動く時代になった、国境のもつ意味は相対的に小さくなっている、その代わりに国際的な流動性が高まっています。

グローバル化が進んでいる現在は国内の経済活動や制度を海外の動きから遮断することが、非常に難しくなっているのです。これは企業に対してチャンスでもあり、挑戦でもあります。それぞれの会社は原材料や生産コストが安いところに工場を設置し、物を製造、調達します。国内市場より海外市場で得た利益が大きい例も珍しくありません。それに、外国企業とのやり取りにより位置をとるために海外市場に役に立つ人材が非常に重要になっています。

最近、日本経済の回復が著しいと言われるようになり、留学生の日本企業への就職率も大きく改善されたのはそのひとつの原因です。グローバル化になった世界は従来の社会が持っていた価値観、人間関係、仕事のやり方にも強い影響を及ぼしています。70年代のサラリーマンといえは会社を命として一生を尽くし、就職年数が多ければ多いほど給料が高いという時代はもう少なくなりました。今の会社では人材の総合的能力を重視し、会社は従業員を雇用する事に対して従業員も会社を選んでいきます。

固有の伝統、文化は地球の潮流の中でお互いに認め合い、反発し合い、新しいものを生み出しています。

こういう時代に生きている私たちはこの激しい変化に対してどうやって対応すべきですか。何を変えて行かなければならないですか。その中でもっとも重要なのは経験だと思います。

レポートを書くのと同じように、最初はどこから手をつけてよいかわからない。しかし、沢山書くと同様にうまくなる。いろんな経験を身に着けると将来に大きな財産になります。

最初に日本に来たとき先生がこういう話をおっしゃいました。「日本語だけでは決して日本社会が受け入れてくれない。日本の文化や歴史、風習なども勉強しなければならぬのです。」われわれ留学生としては、他人が本だけで勉強できるものを自ら体験し、異国の文化を勉強して自分の価値観を変え、絶好のチャンスであります。

もうひとつ重要なのは、人とのコミュニケーション能力、特に外国語によるコミュニケーション能力である。グローバル化が進展する状況においては、外国語を駆使する能力が不可欠です。とりわけ英語は、現状において国際共通語として最も中心的な役割を果たしており、英語力は後述の情報リテラシーと併せてグローバルな知識や情報を吸収、発信し、対話、討論するための基本的な能力である。

各大学においては、英語をはじめとする外国語によるコミュニケーション能力を重視して、外国語を聞く力や話す力の一層の向上を図るとともに、外国語で議論したりプレゼンテーションを行ったりできる能力を育成するための教育内容・方法の工夫改善が必要である。本大学でも一年生に英語のプログラムを作り上げていました。われわれ留学生としては日本語と母国語はひとつの武器であるが、もし英語も上達すれば絶対将来役に立ちます。

それにグローバル化が進展する中では、世界を舞台にして活躍し社会で指導的な役割を果たす、深い教養と高度の専門性に裏付けられた知的リーダーシップを有する人材が求められます。

こうしたグローバル化の波が押し寄せ、弱肉強食の時代が到来している。人は人より広い視野を持つ、人より先のことを考える、そうしないといつか人に遅れる。今のことだけ考えるのではなく将来を向いて考えるべきです。

特に三年生の皆さん、もう就職の時期になり、どんな企業に入るか自分に合う

仕事を探すべきです。大手企業に入ったら出世できるというわけではなく、逆に小さな会社はいろいろなことを勉強できるし、それは将来の大きな成功の基盤になるかもしれません。とにかく経験は人生の宝物です。なるべく貯めるべきです。世界を理解し広い視野を持つ人になりましょう。

【呉大畏】

## 異国に生きる私の体験と考え

三年 陳長鳳

今日の世界においては、社会、経済、文化のグローバル化が急速に進展し、国際的な流動性が高まっています。また、科学技術の爆発的な進歩と社会の高度化、複雑化や急速な変化に伴い、過去に蓄積された知識や技術のみでは対処できない新たな諸課題が生じており、これに対応していくため、新たな知識や専門的能力を持った人材が求められています。

世界は目まぐるしく変化を遂げつつあります。第1に、インターネット等の情報通信技術の急速な発展は、「知」の創造や伝達の方法を大きく変化させつつあります。第2に、これと関連して、グローバル化は、経済界のみならず社会や個人の様々な営みにまで波及し、国境を越えたあらゆる活動の増加と拡大をもたらしています。第3に、各国におけるグローバル化に対応した教育改革がなお一層進展しており、欧米諸国をはじめとする諸外国の大学においては、グローバル化に適応する高等教育システムの構築を目指して、教育内容の見直し、情報通信技術の活用をはじめとする様々な新機種の検討が開始されつつあります。

異なる歴史的・文化的背景や価値観を持つ人々と共生していくためには、自らがしよって立つ国や地域の歴史や伝統、文化を深く理解し、異なる文化的背景を持つ人々に対し、これを適切に説明し理解を求めたり、主張したりすることのできる能力を学生に養うことが必要である。また、異なる歴史的・文化的背景や価値観の存在を視野に入れつつ、地球的規模で物事を考える基礎を培う観点から、世界の多様な国や地域の歴史や伝統、文化に対する理解を深めさせることが重要であります。

今日は私が日本で今までに驚いたこと、感じたことや学んだこと、そして自分の考えなどを話したいと思います。まず驚いたことは、日本のお坊さんは普通に結婚できること。私は今ホテルでアルバイトをしていて、主に結婚式場のドリンクを担当しています。今まで何回ものお坊さんの結婚式を見ました。これに対し興味があつて、日本、スリランカ、中国などのお坊さんを調べて来ましたが、みんなご存知のように日本のお坊さんは普通の人と同じく結婚式を挙げて、食べ物と飲み物の禁止が何もなく、子供も当たり前のように生まれて、育って行くようです。しかも、子供がそれを継続することが多いようです。仕事場の人と話をしたら、こういう感想でした。「日本のお坊さんはいいですよ！お金を持っているではないか！今、日本人の高齢化社会が進んでいて、亡くなる人が多ければ多いほど、お坊さんのお金が多くなるではないかって」と言われました。これを聞いたときに、日本のお坊さんが幸せだと思いました。中国ではお坊さんが結婚するなんてまずありえないし、お金持ちと言う話も聞いたことがあります。中国のお坊さんの呼び方は和尚（おしょう）とか方丈（ほうじょう）とか呼びます。大体和尚は寺の新人や、まだ修行時間が短いという人です。方丈は寺の主宰（しゅさい）する人です。彼らは結婚を禁止されるし、酒を飲むことや、肉を食べることを禁止されるようです。

ついでこの間日本のお坊さんの結婚式での面白い話を紹介させていただきます。このお坊さんは以前、商社のサラリーマンで、卒業した大学も一般の大学でした。司会人により、紹介され、結婚式の途中に新郎の発言がありました、その内容は本当かどうか分かりませんが、いずれにしても大変面白いので、紹介させていただきます。「結婚をするということは家庭を作ると言うことです。夫婦明るく楽しい家庭を目指してお互いに助け合い、いたわり合って生活をしていくのです。そしてひとつの家族になります。家族のことを英語で「FAMILY」と言います。FAMILYのFはFatherのF、そしてAはAndのA、そしてMはMotherのM、そしてIはIのI、そしてLはLoveのL、そしてYはYouのY。続けるとFather And Mother I Love You」となるというお話でした。なかなかよいお話で大変勉強になりました。

スリランカのお坊さん・テラワード(上座部仏教は戒律の仏教ともいわれています。守らなければいけない戒が、比丘(男性出家者)は250戒、比丘尼(女性出家者)は実に約500戒もある。出家できない一般の在家者は、お寺や僧に布施をして功德を積む。布施とは(日本ではすっかり「お金」のことをいうようになってしまっているが)、食べ物や花、オイルランプを捧げて、寺の手伝いなどの労働など広い意味がある。バスで僧に席を譲るのも布施であります。

「坊主丸儲け」や「くそ坊主」の言葉があるように、日本では僧侶に対してあまりいい印象を持っていない人が多いのではないのでしょうか。もちろん中には立派な方もいる。しかし残念なことに、私たちは仏法の導き手として僧侶を敬うことを忘れて久しい。そこから考えると、スリランカの僧侶は実に尊敬されているように見える。人々は僧の足元にひざまずき尊敬の念をあらわします。お寺にはお茶を出したり、食事を運んだりする世話人がおり、僧が動かなくていいようにまめまめしく働き世話をする。スリランカの中でも、村に住む僧よりも人里離れた山に住む僧のほうが尊敬されるように、より俗世間から離れているほうがよいとされるのです。

しかし、よくよく人々に話を聞いてみると、僧侶への不信感が強いことがわかりびつくりしました。布施される食事について指示する者、寄付金を持って逃げ還俗して家を建てる者、近くに女性を住ませ自分の世話をさせる者と、僧らしからぬ僧が多いといえます。袈裟をつけていればどんな人間でも敬うべき考えが根底にあるため、日本のように表立っての批判はないが、厳格な戒律を守り修行にはげむ仏教僧のイメージとはほど遠いのが現実のようです。

そして、中国と日本の結婚式の異なる点に気がきました。日本では、信仰に問わず教会のなかで愛の誓いができますが、中国ではキリスト教の信者でなければ、教会の中で挙式できません。披露宴の会場に入り着席すると、中国の赤い雰囲気と異なり、白い雰囲気が多い様です。座席の順番も面白かったです。日本では、来賓が一番前の方に、中国では大体親戚と身内を前の方に座らせます。日本の方は、来賓を尊敬する気持ちを表すためだと勝手に解釈しました。中国の場合は、何でしょうか?新郎新婦にお酒を進める際に、親戚などお手軟らかな方からは始めるためでしょうか?日本の結婚式は、さわやかな雰囲気の中で、着々と進

行していきますが、中国の結婚式はにぎやかな雰囲気の中で、後ほど新郎家と新婦家の酒合戦になります。どちらも幸せ一杯なセレモニーです。新郎新婦と家族は、なかなか大変だと思えます。

まず中国の結婚式を紹介します。お嫁さんは朝6時頃に美容院に行つて、化粧と髪の毛を整えてもらい、それから、家に戻つて、お婿さんが迎えに来るのを待ちます。9時半頃、お婿さんはお嫁さんとお嫁さんの親戚をつれて、新居に行き、親戚の方は新居を見てから、みんなでホテルに向かいます。結婚式はホテルの宴会場で行い、(家族によって、やる場所も多少違う。)結婚式が始まってから、最初に、アナウンサーは20分程お祝いの言葉を述べます。それから、お客様は自由に御飯を食べ、お客様は食べている間に新婚さんが皆さんと一人ずつ乾杯します。200人ほどのお客様が来るので、新婚さんは非常に大変です。お客様の途中でたまにいたずらをする人がいるので、非常に時間がかかります。全員終わつた頃には、もう午後の3時くらいになってしまいます。その頃には、お客様もだんだん帰つてしまいます。それから、新婚さんは海浜道路とか景色の綺麗な所へビデオと写真を取りに行きます。中国の結婚式はほとんど、このような形です。

日本の結婚式は宴会場かホテルでやる人もいるが、教会で宴会をやる人もいるということをお日本人の友達から聞きました。出席のお客様の名前を書いたカードも前もって、テーブルに置いてあり、新婚さんの家族の人はほとんど後ろのテーブルに座つて、新婚さんの会社の人や友人などが前のテーブルに座ります。しかし、中国の結婚式は逆で、お嫁さんの親戚は一番前のテーブルに座つて、それから、お嫁さんの友人と会社の人とお婿さんの親戚と友人の順番です。また、日本人みたいに、各テーブルにお客様の名前は書きません。リーダーみたいな人がいて、お客様が来たら、お客様かどうかを聞いて、席まで案内します。

日本人の友達は中国の結婚式に参加して、驚いた様です。中国の結婚式に参加したことがなかったもので、日本と同じようにやるじゃないかと日本人の友達が言いました。確かに、自分もそう思う、テーブルへの座り方から見ると、やはり中国人の方が血の繋がる人を一番大事にすることを表しているのではないのでしょうか?

それから日本で学んだことを話したいと思えます。まず我慢を学びます。もし

アルバイトの経験がなければ、いろいろな意味で損だと思えます。経済面だけでなく、本当の日本、日本人を知るチャンスを失うと思うのです。アルバイトの経験を通じて、私がつくづく感じたのはやはり日本人の曖昧さです。いつも自分の気持ちのままに出すのが私の性格です。でも何回も自分が全然気が付かないうちに、相手を傷つかせたり、ショックを与えたりしました。今考えると、きっと自分のはつきりし過ぎるせいでしょう。日本人は一般的に何かあっても、あまり顔に出さない気がします。日本の友達はいつも私と話している時、ニコニコしています。きっと私の気持ちをよくさせるためでしょう。話するときにはつきりしたほうがいいか、あやふやのほうがいいか、それを判断するのは難しいと思いますが、話するときには、相手の気持ちをよく考えて、傷をつけないような話し方が人間的にはもつとも相応しいかもしれません。

次に時間を守る習慣を学びました。日本の電車がいつも時間どおりに運行することは世界中で知られています。普段日本人も電車のように時間を守っています。もし約束したら、何もなければ、絶対時間通りに来ます。いつのまにか私も時間を守るようになりました。もう一つ学んだのはゴミを細かく分ける習慣です。

最後に日本で困った体験を話したいと思えます。日本に来て1年後アパートに引越しました。ある日、1階に住んでいるおばさんが急に上がってきて、私のゴミの捨て方がよくないと注意してきました。こっちはすぐにお詫びをしましたが、どこが間違っているか全く見当が付きませんでした。

1週間後、ゴミを捨てた日の夕方に、家に戻った私は、ドアのそばにゴミ袋が置かれていることに気付いたのです。ゴミ袋には一枚の紙が貼ってあり、その紙には「ルールに従ってゴミ捨てをしてください。ゴミをもう一度再分別してください。」という文字が書かれていました。

「あれ？本当？何か間違った？そんなはずはないけど…。まさかうっかりして何か？？」と不思議に思いながら、そのゴミ袋を開けてみると、中身は私のものではありませんでした。私は、1階に降りてあのおばさんと呼び出し、私の出したゴミではないことを彼女にはつきり言いました。

おばさん不機嫌な顔をして私の話を信用しようとしませんでした。翌日、

1階の玄関の壁に「不正なゴミ捨てを禁止します」という告知文が貼られているのを見ました。でも、私が「不正なゴミ捨て」をしているわけではないので、気にしませんでした。

しかし、土曜日の夕方、この前と同じように、私の家の前に一つのゴミ袋が置かれていたのです。再びそれを開いてみましたが、やはり私の捨てたゴミではありません。

とうとう怒りを抑えきれなくなった私は、急いで1階のおばさんのところへ行きました。彼女の態度はかなり悪く、「ここにいる外国人はあなたただけでしょう。だから、あなたと決まっているじゃない。私達日本人はそんなことをしないのだから。」という極端に差別的なことを口にしたのです。

もう完全に頭にきた私は、「外国人だから悪いってどうしていえるの？私は捨ててないって言ったのに！何で勝手に人に濡れ衣を着せるの？」と強く言いました。

おばさんは「じゃ、一緒に証拠を探しましょう、あなたじゃないという証拠が見つかったら謝るわ。」と言いました。

二人は、さつそく鼠のようにゴミをいじり始めました。私の運がいいというか、「清者自清」（潔白な人は無理に人に説明しなくても自然に身の潔白が証明されるという意味です）というか、私はそのゴミ袋の底から住所の書いてある封筒を見つけたのです。

それをおばさんに見せたら、彼女の顔はたちまち真っ赤になってしまいました。封筒の宛て先には、隣の201号室の人の名前がはつきりと書いてありました。彼女は申し訳なさそうに、私に詫びてくれました。

このことで、おばさんが私を誤解したかもしれないが、彼女のその考えは理解できないことありません。確かに外国人の中にはゴミ捨てのようなことに十分注意を払っていない人も相当います。

以上たくさん話をしましたが、日本人に対して、感謝の気持ちと理解して欲しい気持ちの両方があります。実は一番伝えたいのは今の時代もう国境はないと思います。国の違い、民族の違い、文化の違い、宗教の違いはいろいろな問題を起こす原因になる根本かもしれないが、そんなたくさん違いがあるからこそ、

お互いの交流が重要です。お互いの国籍のことはもう重要ではないと思います。人間はもともと共通のものがありません。世界のどこかで、大地震や洪水などの自然災害によって、家財道具だけでなく肉親もなくして呆然自失としている人々に、人類共通の悲しみを感じます。そして、何とか彼らのためになることをしたい。たとえば2003年12月26日に起きたスマトラ沖地震は、世界中の人々に大きな悲しみを伝えたと思います。悲しみだけではなく、何とか応援したいと思うでしょう。ですから最も大切なことはお互い交流し続けることです。理解しあうことこそお互いの溝を埋める唯一の方法なのです。私は溝を埋めるために日本語を一生懸命勉強して、できる限り日中の交流をうまく進むように、互いの理解ができるように頑張りたいと思います。

21世紀はグローバル化が進み、人、物、金、情報が国境を越えて大規模に移動する時代です。また、2000年3月に発表された国連のレポートは、少子高齢化の進展が著しい日本や欧米諸国は、今後、大規模な移民受け入れの可能性が高いことを示唆しています。実際に日本でも、ここ数年の間に、グローバル化や少子高齢化への対応を理由とした、本格的な外国人労働者、留学生、移民の受け入れの提言がなされています。21世紀の日本は、そして地球社会は、多民族が共生する社会となるのでしょうか。

【陳長鳳】

## グローバル化による変化

二年 鄭権

前書き

2003年4月に日本に来て二年間、日本語学校に通い、その後、横浜商科大学に進学しました。今、日本に来てもう三年半経ち、そのうちに日本語を話せるようになり、日本人または日本文化について、もう深く理解できたと思いましたが、だが、二年後期からゼミに入ることをきっかけに、私が間違っていたことに気が付きました。うちのゼミはグループを分け、研究する内容をお互い理解してから次の段階に入るという方法で、講義が進んでいます。もともと、人によって

違う考えがある上に、わたしが日本語をうまく使えなかった事により、お互い話をうまく理解することが困難でした。それは日常会話と違って、内容が通じても、自分の価値観を持つているので、相手の考えを認めるまでには、かなり時間がかかります。だから、どのようにすれば、気楽に自分の考えを相手に伝えられ、そして、認められるかを知るため、異文化コミュニケーションについての研究をしました。

### 異文化コミュニケーション

テーマは「グローバル化による変化」、サブタイトルは異文化コミュニケーションです。現在、グローバル化と異文化との関係について、相対的だと考える人がたくさんいます。しかし、グローバル化の形成になりつつ、異文化の研究がますます重要になっていくことから考えると、相対より、むしろ、関連ではないかと思つて、このタイトルを付けました。

21世紀はグローバルの時代であり、様々な分野(政治、経済、法律、宗教、文化、社会)がかなり変化していることはご存知でしょう。特に経済のグローバル化が一番早く進んでいます。このように国境を越え、世界を共同市場として、自由競争できるように、世界経済を新たなステージに促進しました。

一方、グローバル化になりつつ、様々な問題が続々出てきました。例えば、外資企業は中国で子会社を作るケースです。中国では2008年に北京オリンピック大会と2010年に上海世博会を開催することによって、世界中の人々の注目が集まり、大きなチャンスがあるという考えで、多くの外資企業が子会社を作りました。トヨタ、東芝、M&Gなど、もちろん狙いはそれだけでなく、人件費の安さ(先進国と比べ)や市場の広さなどのメリットもあります。これらのメリットの上に資金、技術を加え、きちんとプランがあれば、必ず儲けられると思う方がたくさんいます。

しかし、実際は、うまく行かない場合が多い様です。いったいなぜ予想した効果を果たせなかったのでしょうか?原因は各企業によって違う所があるかもしれないが、その中で、最も重要なのは、人間関係をうまく掴んでなかったことだと思います。中国に進出したいと言つても、人との関係をうまく把握しないと、どんな技術があつても、市場の競争に対応できないのは中国の実情です。現在、

インターネットなど通信手段の発達によって、世界は近く感じられるようになりました。一方、この変化によって、お金があれば、技術、情報も商品になり、簡単に手に入るようになりました。これに対して、企業間の透明性が高くなり、競争がさらに厳しくなりました。この競争を乗り越えるため、人間の心を掴むことが鍵だと私は考えています。世の中では、買えない、変えられるのは心です。つまり、企業がうまく行くかどうかを決めるのは人です。特に、多国籍企業においては、異なる文化があるため、人間関係を維持するのは非常に難しいです。それを解決するため、まず、相手の文化を知る必要があります。

中国は人間間の感情にとっても重視する国です。それは中国の長い歴史と悠久の文化に関わりがあります。外国企業はそれを理解しないと、うまく行かなかつたのは当然だと考えられます。

例を挙げると、中国では、「天時、地利、人和」と言う格言があります。これらはなにかやろうと思うとき、特に、自分の事業を始めようと思うときに、成功させるため、必ず考える三つの要素です。日本語で訳すと、「天の時、地の利、人の和」です。「天の時」と示すのは、気候条件の意味ではなく、時期、機会のことです。「地の利」というのは、地勢上の有利さを指し、いわば土地からあがる利益です。「人の和」というのは、人の平和です。人間関係をうまく掴むことを表わしています。この格言に基づいて、「天の時」は地の利にしかず、地の利は人の和にしかず」といういい方も生まれてきました。簡潔の言葉で説明すると、どんなにいいチャンスがあっても、どんなに土地の形勢が有利であっても、人心の一致団結の堅さには及ばないということです。

このほかに、お箸は1本だと簡単に折れるけど、10本のお箸を一緒に折れる人がいないという話もあります。お箸を示すのは人の力です。この話は人の強さと弱さ両方を表します。前文では一人できるときに強い相手に会ったら、負けるしかないという弱さを表し、後ろの文では、多くの人を集めたら、無限の力があるという強さを表します。このような昔から広く伝えられてきた格言は、中国人の頭の中で、深く埋め、今日は中国人の考え方の基になったと思います。だから、文化を知ることが、人間関係を維持するため、基礎の知識だと思ってもいいでしょう。

それから、その文化を理解する上で、積極的にコミュニケーションができることは必要になってきました。英語の communication は、「情報を伝達する、伝える」といった意味をもつ動詞の communicate の名詞形です。この communication は「伝える」とか「共有する」といった意味をもつラテン語に由来します。(Guralnik, 1970) このため、コミュニケーションは一般的に「人間がお互いに意思、感情、思考を伝達し合うこと、言語、文字その他視覚、聴覚に訴える身振り、表情、声などの手段によって行う」といったようにとらえられています。

しかし、最近では、科学の進歩によって、人の意思を伝達する手段が増え、例えば、電話、メールなどです。コミュニケーションは時代によって異なりがあるため、コミュニケーションの定義を決めるのは難しいです。ですから、以上の変化を見ると、異文化コミュニケーションはグローバル時代から生まれてきたものだと考えられます。

つまり、グローバル時代と異文化コミュニケーションの存在関係は相対ではなく、関連だと思えます。

【鄭権】

あなたの就職活動は順調ですか？

最近、日本の経済回復が著しいと言われるようになり、留学生の日本企業への就職率も大きく改善されたという情報も頂いております。これからも多くの国々から多くの留学生が日本での勉強を目指して来日されるのが予想されるながら、大学や日本企業の発展と国際化の進展により、国際社会とのつながりの中にある私たちができることや目指すことを考えなければなりません。

このような背景の下で、在学の留学生たちは卒業後の行方に悩んでいる声は時々耳に入ります。しかし、卒業後に帰国する人や続いて進学する人はとにかく、日本で就職を目指している留学生にとっても必ずしも日本企業への就職活動が順調というわけではないのは現状であり、そして、多くの方々が将来に不安を感じ、生き生きとした姿を見失ってしまったたりする人も少なくないでしょう。

さて、第八号留学生新聞の発行につきまして、「東京外国人雇用サービスセンター」より、留学生就職活動に関するサポート情報を摘要して、留学生の皆さんに紹介させて頂いて、少しでもご参考になれば幸いです。

【編集者より】

# 就職サポート・コーナー



## 就職活動

### Q&A

◆東京外国人雇用サービスセンターより◆

1、企業研究をする。  
自分の学歴、職歴、志望などから、どのような企業にアプローチするかを決める。

前年12月～2月頃

**Q1** 就職活動の流れはどうなっていますか。  
A1 日本では、4月1日から入社となりますが、これからは就職活動が多様化すると思われれます。参考として、一般的な就職活動を時系列的に説明します。

就職活動の流れはどうなっていますか。

◆大学などで学んだ知識を活かせる範囲内で適職を探すこととなります。入管法上、文科系の留学生の場合は、海外に支店、工場があるか、輸入・輸出業務を行っているか、大卒程度の知識を用いて行う生産管理、企画事務、広報宣伝、商品開発業務を行っているかなど、特定の職種に限定される傾向があります。理工系の場合は、職種の限定がなく、自分の専攻分野(短大卒以上)を活かせる企業を選択します。

◆企業研究の資料としては、会社四季報、就職ガイド、外資系企業総覧など、企業の特徴を一覧表にした図書が発行されています。(大学や最寄りの図書館などで調べます) また、過去の留学生の就職状況や就職先を、大学の就職部(国際交流センター含む)やサークル、交流会の先輩達に聞き把握します。

2、資料請求をする。

郵送により請求する。

◆直接企業に送る方法と求人雑誌などについているハガキを利用する方法に分かれます。前者は、自分でハガキのフォーマットを考えなければなりません。大手企業のように、多くの資料請求を受ける場合は、請求データをコンピュータで整理していると思われるか、または、自分がいかにアピールするか、狭いスペースの中で工夫することが必要です。後者は、ハガキのフォーマットが決められているので、必要事項を明確に書いた後、アピールポイント欄や質問・意見欄は、具体的にわかりやすく書くことが大切です。(資料請求ハガキ)の内容は、面接時に質問される場合があります。コピーを取っておきましよう)

◆電話する内容を整理し、「用件は簡素に手際よく」、「自己紹介は元気な声ではっきり」と話せるように心がけます。また、社会人としての電話のマナーも身につけてください。

◆インターネット・ホームページにより請求する(電子メールにて請求)

◆現在は多くの企業がホームページを開設しています。ホームページの中で、資料請求やセミナー日程紹介、申込を受け付けている企業もあります。中にはホームページからでしか受け付けない企業もあります。目指す企業のホームページを定期的に見て情報をチェックするとともに、ホームページから資料請求等行える企業へは、指定された必要な項目を電子メールにて送信しましょう。

3月～6月頃

会社説明会に参加する。

企業からのセミナー案内状が送付されてきたり、就職に関する説明会などが行われる時期です。また、同時に、新聞社や就職情報誌による「留学生のための会社説明会」なども行われます。さらに、「面接、適性検査、論文などの試験の準備をする時期でもあります。(会社説明会の日程や内容は、大学や当センターの掲示物に掲載されます。注意して見てください。)

1、大学などの求人票の公開が始まります。

就職部からいろいろな情報を集め、求人への傾向や留学生の募集状況を聞きます。留学生向け求人だけでなく、自分の職歴、学歴から、応募できそうな求人は積極的にアプローチします。東京外国人雇用サービスセンターでも、4月より、求人公開を行います。

2、合同就職面接会が行われます。

厚生労働省、都道府県、民間企業（新聞社、求人雑誌社）などの主催で頻繁に行われます。求人内容は、ほとんどが、留学生向けではありませんが、自分の職歴、学歴を考え、参加してみましよう。

3、公共機関では随時、職業相談・紹介に応じています。

1月より、東京都内及び近郊のハローワークで受理した転職者用求人をご紹介します。東京以外の地域に住んでいる留学生は、最寄りの公共職業安定所及び全国学生職業センターや学生職業相談室を利用してください。

4、企業から内定通知をもらおう。

留学の在留資格から就労（人文知識・国際業務や技術）の在留資格への変更が必要です。在留資格の変更は、法律的には、留學生本人の申請となります。在留資格の変更や更新について、どのような手続きをすればいいのかあらかじめ調べておきましょう。

Q2 企業の情報などは、どのように把握すれば

良いですか。

A2 就職活動は、情報をいかに集めるかが採

否を決定する大きなポイントとなります。

1、クラスメートや交流会に参加の留學生から就職に関する情報を集めます。

2、大学の就職部や学部の教授から、去年の留學生の就職状況や今年の見込みなどを把握します。

3、会社四季報、就職ガイド、外資系企業総覧など企業の特徴を一覧表にした図書が発行されているので活用します。（大学や最寄りの図書館などで調べて見ます。）

4、東京外国人雇用サービスセンターを利用します。

※以上の方法で希望している企業の募集状況（募集人数、募集職種）、海外事業所の有無、連絡先人事課の場所、担当者名、電話番号、企業概要（設立年月日、資本金、業績など）を把握します。

5、その他、就職している学部（専攻）の先輩を訪問し、企業の特徴や採用状況を把握します。

Q3 面接試験における注意点を教えてください。

A3 面接の一般的なパターンと特に注意する点を説明します。

面接の一般的なパターン

◆ 個人面接・・・

担当者（ラインの担当者を含む）担当部署の部課長取締役などの幹部

担当者面接・・・

実際に仕事をする部署の担当者も参加して、応募動機や何ができるかなど実際に働く職種との適性などをチェックする。

部課長面接・・・

担当者面接で聞いた内容を、再度確認したり、将来的な展望などを聞く。

取締役面接・・・

本人の人間性（会社への貢献度や社風に合った人材か）などを重視して面接を行う。

◆ 集団討議・・・

あるテーマを出題し、自由に討議させる形式。例えば、人事担当者が、観察者になり、学生12～13人を一単位として、そのテーマについて話し合う。（リーダーシップ、的確な回答、人の話を聞く力などを試験することを目的としている。）

◆ 集団面接・・・

個人面接の応用で、3～8人を一単位として、面接を行う。ただし、他の人が発言しているときの態度や反応も面接担当者は見ているので注意を要する。

Q4 筆記試験としては、どのようなものがありますか。

A4 代表的な筆記試験とその注意点を説明します。

1、筆記試験

SPI適性検査や常識テストなどが行われます。日本の高校卒業程度の学力が必要です。（国語、数学、理科、社会など幅広い分野に渡って出題されています。）事前に学習しておかないと答えられないものが多くあります。教材は、大学の図書館で閲覧したり書店で購入するなどして、多くのパターンを勉強しておきましょう。

2、論作文

400～800字ぐらいの分量で、1時間程度かけて行います。テーマとしては、「仕事に対する意識」や「就職動機」を聞くものや「時事問題」をあげています。本国語を使うような仕事(貿易事務、通訳・翻訳、国際金融)を募集している場合は、英語⇄日本語、中国語⇄日本語などの翻訳や貿易事務のテストが行われることがあります。

## Q5 どんな能力が必要ですか。

A5 日本語能力、公的な資格は積極的に取得しましょう。

1、職種を問わず、日本企業でのコミュニケーション手段は、2、多くが日本語を使います。1級の取得はもとより、日本語会話を充分学習し、仕事として使える日本語をマスターしましょう。

3、海外取引のある企業に就職希望の留学生は、本国の言葉以外に、英語、特に貿易英語ができると有利です。TOEICや実用英語技能検定などの資格を取得しましょう。

4、日本語能力をつけるには、まず、日本の礼儀作法や言葉のマナー(敬語)を勉強し、日本人の考え方や文化を十分理解することも必要です。

例えば、市区町村で行われている「各種サークル」の活動などに参加するのも一つの方法です。

## Q6 履歴書や職務経歴書の記入方法で注意する点はなんですか。

A6 履歴書(JIS規格等)や職務経歴書(日本法令等)で注意する点を説明します。

1、まず、履歴書の記入例を参考に基本的事項を記入します。  
2、企業の人事担当者は、応募する学生の履歴書をたくさん見

ることになります。そのため、特徴ある履歴書にするには、「免許・資格」「得意な学科」「志望動機」「本人の希望記入欄」の記入方法に注意します。

3、免許・資格欄・・・公的な本国での資格(かつこ書きで自国名を記入)及び日本での資格を記入します。

◆ 特技、好きな学科欄・・・本国語は必ず書きます。例えば「語学(北京語、英語)」など

◆ 本人希望記入欄・・・日本で仕事をしてみようという動機は、何かのエピソードによって生まれます。その中の要点を短くまとめて記入します。また、企業に入社したら、どのようなことをしたいか、どのような貢献ができるのかを自分の言葉でそのまま記入します。

4、履歴書に記入されている項目は面接で必ず質問されます。入学・就職年月日や、文字の誤りがないかなど事前に点検しておきましょう。

5、本国での学歴や職歴がある留学生は、履歴書の他に「職務経歴書」を提出します。

職務経歴書は、記入例を参考に基本的事項を記入し、特に、従事した職業の内容、取り扱った商品など、できるだけ詳しく記入し、就職部の先生に見てもらいましょう。

## Q7 就職活動を計画的に行うにはどうしたらいいですか。

A7 就職ノートを作成しましょう。

就職活動は、ただ漠然と行っても成果は得られません。

ん。計画的に行動するためにも就職ノートを作り、自己分析、企業研究、企業訪問など就職活動に関することを効果的に記録・整理しておくことが大切です。(主な、項目のポイントは以下のとおりです)

### 1、企業研究欄

企業の募集状況(募集人数、募集職種、海外事業所)、人事課(場所、担当者名、電話番号)、企業概要(設立年月日、資本金、業績など)を企業ごとにまとめます。

※新聞記事などにも目を通します。

### 2、企業への資料請求欄

資料請求日、業種、会社名、人事担当者名、住所、電話番号、資料受領日などを一覧表にし、整理します。

### 3、企業訪問記録欄「訪問一覧表」

カレンダー式にして、面接する企業名、面接時間、持参するものを記入します。

### 「訪問記録」

事前準備・・・訪問する企業の概要、自分のアピールポイント、予想される質問事項の整理

事後研究・・・面接で質問された内容、自分が答えた内容、面接担当者の印象 筆記試験で出題された傾向、論作文のテーマなどを詳細に記入し、次回の企業訪問時に役立てる。